



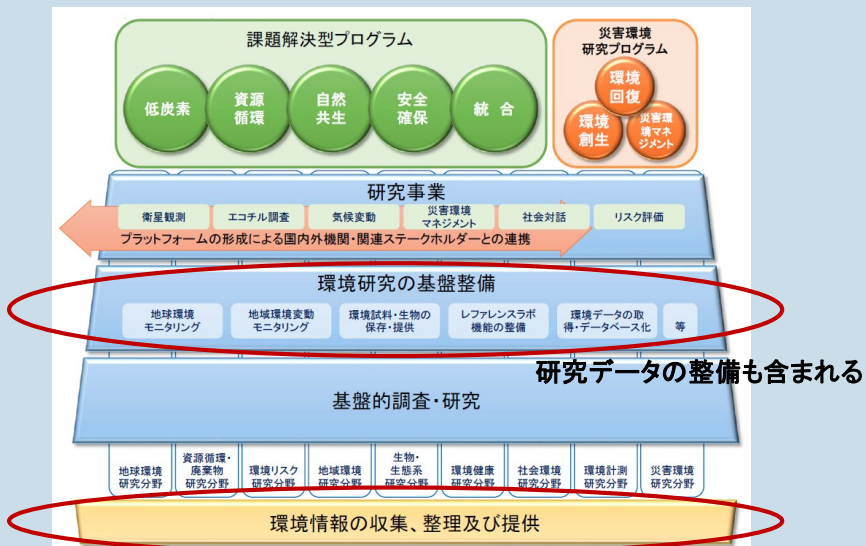
国環研図書室における 研究者支援のためのセミナープログラム

- オープンアクセスから研究データ管理まで -

Seminar Programme of NIES Library for Supporting Researchers
-Open Access and Research Data Management -

国立研究開発法人国立環境研究所
National Institute for Environmental Studies(NIES)
尾鷲 瑞穂
Mizuho OWASHI

国立環境研究所の事業体系



研究所のオープンサイエンスの位置付け

第4期(平成28年度から5年間)中長期計画より

https://www.nies.go.jp/kihon/chukikeikaku/nies_chuki4.pdf

(4) 研究成果の積極的な発信と政策貢献・社会貢献の推進

【重要度:高】

① 研究成果の発信・提供

研究成果の発信・提供について、具体的に以下の取組を行うものとする。

- ・ 個別の研究成果について、誌上発表及び口頭発表を推進する。
- ・ 研究活動や研究成果に関する情報を、マスメディアや新しいメディアを通じて積極的に発信する。
- ・ 研究所の最新の動向を正確かつ迅速に発信するとともに、利用者が必要とする情報に効率的にアクセスできるよう、ホームページの機能強化に努める。
- ・ オープンサイエンスを推進するため、研究成果等を蓄積し、利用しやすい形で提供するシステムについての検討を行う。

国立環境研究所 環境情報部の業務

- ・ 国民への環境情報の提供
- ・ 国立環境研究所で行われた研究成果の発信
- ・ 研究支援(情報インフラの整備など)

オープンサイエンスに貢献出来る可能性は高い部門



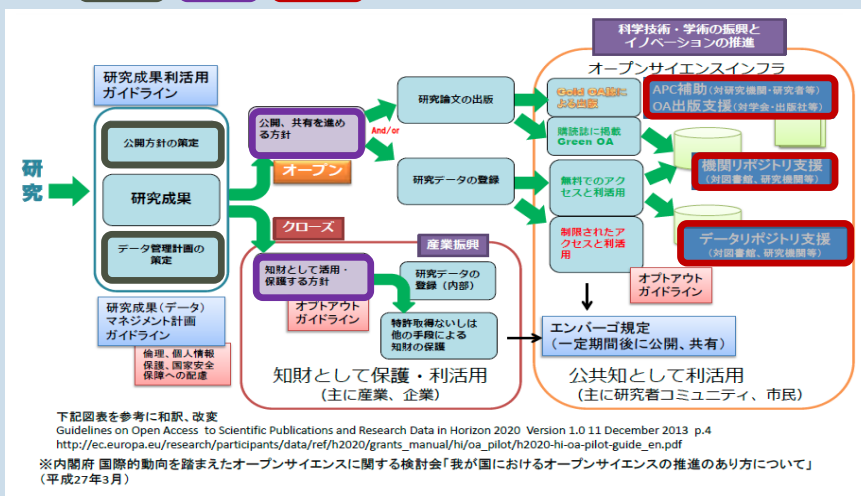
図書室で何か出来ることはないか模索

最初は オープンサイエンスの推進のため 「研究機関」として何が必要なのか？

から、考えた。

内閣府の報告書をもとに機関としてやるべきことを整理 (国を組織と見立てて)

□ □ □ で囲った部分の状況を確認



2016年4月時点で方針も基盤もない状態

公開、共有を進める方針
知財として活用・保護する方針



知財の管理は
しているが、
研究データは対象外

△

APC補助・OA出版支援
機関リポジトリ支援
データリポジトリ支援



機関リポジトリ
もない

×

公開方針の策定
データ管理計画の策定



方針や運用規定
はない
研究員まかせ

×

機関リポジトリ構築の検討とあわせて 研究所全体で知識底上げが必要

科学研究に従事している研究者は、
オープンサイエンスの動向を
自ら調べていることに時間を割けない



図書室から、効率よく、関連情報を提供しよう

セミナーを通して組織全体の知識底上げ 方針策定や実装につなげる

研究所のオープンサイエンスの現状確認

オープンアクセス

「オープンアクセス」の知識底上げ

情報提供

「オープンデータ」の知識底上げ

オープンデータ

方針策定
実装

基盤的支援

方針策定
実装

セミナー開催において留意したこと①

- ・研究者にとって有益な情報
(図書館情報学の研究発表にならないように)
- ・研究所の性質上、分野が多岐に渡ることに留意
(人社系～STMまで)



- ・事実ベースの講義内容
- ・分野共通の情報と特定分野の特異な情報は
切り分けて解説

セミナー開催において留意したこと②

- ・オープンサイエンスのセミナーというだけでは、担当外業務となり、参加出来ないという職員が多い
- ・開催側としては、少しでも興味があれば参加してもらいたい



お昼休みなど、上長の許可が
不要な時間帯に開催

オープンアクセスを知るセミナー(全7回)

	サブタイトル	内容
①	オープンにするってどういうこと?	オープンアクセスの潜在的利益、GreenOA、GoldOA、機関リポジトリ、APCなど
②	昨今のAPC事情	OAジャーナルの種類、APC、APCの価格分布、カスケード査読など
③	学術情報の識別子 (DOIとORCID)	DOI、ORCID、 <u>リンクメカニズム</u> 、オープンアクセスとの関連性
④	世界のオープンアクセス事情	オープンアクセス、パブリックアクセス、JISC,NIHの方針など
⑤	OA時代の著作権	著作権法、クリエイティブコモンズ、 <u>研究データの権利関係</u> など
⑥	オープンアクセスの実際	ジャーナルのポリシー、Self-archivingの方法、プレプリントとポストプリント、オフセット契約、フリッピング
⑦	オープンアクセスと研究データ管理	<u>データのオープン化</u> 、 <u>データリポジトリ</u> 、 <u>研究データ管理</u> 、ファンドの方針など

2016年8月～2017年12月 にかけて開催 各回50～60分
論文のオープン化を中心に、研究データ関連のトピックを時々盛り込む

参加人数(全7回を通して)

- ・延べ参加人数: 127名(平均参加人数 約18名)
 - 研究系 51名
 - 技術系 27名
 - 事務系 49名

最も参加者が多かった回

第5回: OA時代の著作権 23名

最も参加者が少なかった回

第7回: オープンアクセスと研究データ管理 7名

研究データ管理には興味がない研究者が多い？

DMP:Data Management Planという言葉を知っていますか？作成したことがありますか？

- 初めて聞いた。
- JSTのポリシーも初耳

との回答

(興味がないのではなく、認知されていない？)



セミナーのタイトル変更: 2018年1月～

「オープンサイエンス」事始め
第1回: 研究機関と研究活動に求められるもの

オープンアクセスを知るセミナー
第7回:オープンアクセスと研究データ管理

【内容】

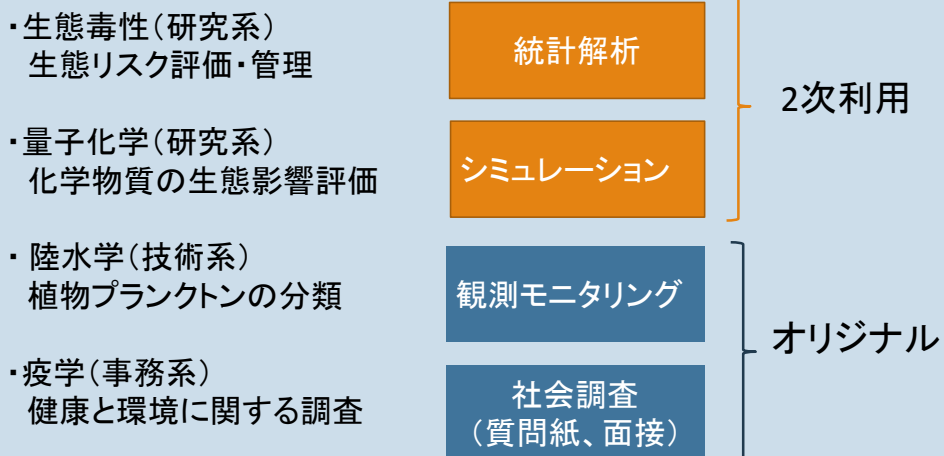
- ・何のために「研究データ管理」をしてきたか
- ・「研究データ」の2つの捉え方 目的と手段
- ・データ管理計画と事例

【形式】

ワークショップ形式

2017年12月26日開催

参加者の専門分野



オープン化の側面だけでは対応出来ない

2次利用

- ・解析環境の向上/充実
- ・データはエビデンス。
評価は論文でしてほしい。
- ・データは論文とセットで
公開がするのが通常。

オリジナル

- ・ストレージや公開基盤の充実
- ・データ公開に対しても評価してほしい。
- ・データを公開するタイミングが
難しい
(プライオリティの判断)

入力するデータが大量

【共通】

公開基盤と解析基盤の
両方が必要

⇒ 入出力が高速なサーバー ⇒

セミナーを開催して見えてきたこと

オープン化の方針の策定やサポートの強化 DMPも含めた研究データの取り扱いの方針策定が課題

公開、共有を進める方針 知財として活用・保護する方針

国立研究開発法人国立環境研究所知的財産ポリシー
http://www.nies.go.jp/kihon/kitei/pr_chitekizaisan.pdf

国立研究開発法人国立環境研究所知的財産取扱規程
http://www.nies.go.jp/kihon/kitei/kt_chitekizaisan.pdf

国立研究開発法人国立環境研究所利益相反マネジメント実施規程
http://www.nies.go.jp/kihon/kitei/kt_riekisohan.pdf

国立研究開発法人国立環境研究所データの公開に関する基本方針
(データポリシー) http://www.nies.go.jp/kihon/kitei/kt_datapolicy.pdf

- ・オープン化のアドボカシーがない
- ・任期付研究員が多く、研究所としての方針は、関心が低くなりがち

情報基盤の構築がかなり遅れているが...

APC補助・OA出版支援 機関リポジトリ支援/データリポジトリ支援

- | | |
|--------------|---|
| APC補助・OA出版支援 | ・国環研研究成果オープンアクセス実態調査
→APC補助の予算化検討へ
(やや、難航中)
・研究成果データベースの改修 |
| 機関リポジトリ支援 | ・オープンサイエンス推進検討WG
→構築する方向で動いている |
| データリポジトリ支援 | ・大型計算機やソフトウェアとの連動も課題となるため
共通基盤としての構築は時間を要する |

- ・海外のリポジトリへの掲載の問い合わせなど関心が高まった
- ・インフラ整備部門のスタッフに関心を持ってもらうのが課題

セミナー通して研究者に役立つ情報は引き続き提供したい

公開方針の策定 データ管理計画の策定

公開方針の策定

- ・オープン化の手段の知識
(GreenOA, GoldOA, 学術情報流通全般)
- ・ファンドの方針の確認
- ・共同研究者の所属機関の方針の確認

データ管理計画の策定

- ・研究活動全体を見える化
- ・多角的な研究
(リアルな空間への展開)
- ・DMP作成のスキルや知識の習得
- ・研究データ公開の基盤の強化
(メタデータ、国際連携等)

・研究支援として重点化

現在行っている取り組み

- ・オープンデータをテーマに据えたセミナープログラム作成
- ・所内向けe-learning教材に追加予定。

9のフェーズに対してセミナーやワークショップを企画

		ハード	ソフト	制度
生産	所の方針 ストレージ 施設 管理体制	●	●	●
流通	公開基盤 メタデータ 出版	●	●	●
利用	共有体制 教育利用 評価	●	●	●

まとめ:これまでの軌跡

図書館

- ・2016年8月～2017年12月
「オープンアクセスを知るセミナー」開催
(シリーズで7回)
- ・2017年8月～11月
国環研研究成果オープンアクセス実態調査
→2017年12月 所内での報告会開催
- ・2018年1月～
セミナー「オープンサイエンス事始め」開催

研究所

- 2016年9月～
研究データへのDOI付与開始
- 2017年2月～
オープンサイエンス推進検討WG
- 2017年4月
データポリシー公開
国立研究開発法人国立環境研究所
データの公開に関する基本方針
- APC補助予算化の検討の開始
研究成果データベース改修に反映
- 来年度～
リポジトリ構築実装面の検討

今後のセミナーの課題

- ・参加者は、研究データの公開など、オープンサイエンスに関心の高い人
 - 関心の低い人をどうとりこむか。
(課題は、彼らの方が持っている)
- ・広報やホームページ担当など、事務系研究支援職のスタッフからのニーズが高い。
 - 職種別の開催も検討したい
- ・著作権など専門家によるセミナー
 - 企画部門など、外部講師を依頼出来る部門との連携

組織におけるオープンサイエンス対応の課題

【研究所全体】

- 研究データも含めたオープン化方針の策定
- 著作権も含めた知財管理体制
- 予算枠の柔軟化
- OSに対しての研修制度の充実

【情報部門(図書室も含む)】

- リポジトリ等の開発・運用体制構築
- インフラ整備部門への学術情報流通の知識普及
- 研究系・技術系職員のニーズの変化の把握